



報道機関各位

国立大学法人東北大学

東北大学

次期部局長予定者の内定について

東北大学は、標記について、下記のとおり内定しましたのでお知らせします。

(1) 次期部局長（発令予定日：平成25年4月1日）

氏名	新任役職名	任期	現役職名	
大 淵 憲 一	文学研究科長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	文学研究科長	再任
渡 辺 達 徳	法学研究科長	平成25年4月1日 ～平成27年3月31日	法学研究科・教授	新任
大 滝 精 一	経済学研究科長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	経済学研究科長	再任
福 村 裕 史	理学研究科長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	理学研究科長	再任
大 内 憲 明	医学系研究科長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	医学系研究科長	再任
大 島 吉 輝	薬学研究科長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	薬学研究科長	再任
駒 井 三千夫	農学研究科長	平成25年4月1日 ～平成27年3月31日	農学研究科・教授	新任
黒 田 卓	国際文化研究科長	平成25年4月1日 ～平成27年3月31日	国際文化研究科・教授	新任
高 橋 秀 幸	生命科学研究科長	平成25年4月1日 ～平成27年3月31日	生命科学研究科長	再任
松 木 英 敏	医工学研究科長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	医工学研究科長	再任
大 野 英 男	電気通信研究所長	平成25年4月1日 ～平成28年3月31日	電気通信研究所・教授	新任
河 村 純 一	多元物質科学研究所長	平成25年4月1日 ～平成27年3月31日	多元物質科学研究所長	再任
岡 洋 樹	東北アジア研究センター長	平成25年4月1日 ～平成27年3月31日	東北アジア研究センター ・教授	新任

(2) 退任予定部局長

水野 紀子（法学研究科長）、山谷 知行（農学研究科長）小林 文生（国際文化研究科長）、中沢 正隆（電気通信研究所長）、佐藤 源之（東北アジア研究センター長）の各氏は、本学の部局長を任期満了により退任予定です。

※ 添付：次期部局長候補者略歴等

【本件に関する問い合わせ先】

東北大学総務部広報課広報係

電話 022-217-4816

文学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) (おおぶち けんいち)

候補者名： 大 渕 憲 一

任 期： 平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日 (再任)

生年月日： 昭和25年 4月 4日 (62歳)

出 身 地： 秋田県由利本荘市

部 局 名： 文学研究科

所属専攻・学科名： 人間科学専攻

講座(部門)名： 心理学講座

専門分野(専攻)名： 心理学専攻分野

略 歴：

昭和51年 3月	東北大学大学院文学研究科博士課程前期2年の課程修了
昭和52年 3月	東北大学大学院文学研究科博士課程後期3年の課程退学
昭和52年 4月	大阪教育大学教育学部助手
昭和54年 4月	大阪教育大学教育学部講師
昭和57年 4月	大阪教育大学教育学部助教授
昭和63年 4月	東北大学文学部助教授
平成 8年12月	博士(文学)(東北大学)
平成 9年 6月	東北大学文学部教授
平成12年 4月	東北大学大学院文学研究科教授
平成18年 4月	東北大学大学院文学研究科副研究科長(平成23年3月31日まで) 東北大学文学部副学部長(平成23年3月31日まで)
平成18年11月	東北大学総長特任補佐(平成20年3月31日まで)
平成21年 4月	東北大学教育研究評議会評議員(平成23年3月31日まで)
平成23年 4月	東北大学大学院文学研究科長(平成25年3月31日まで) 東北大学文学部長(平成25年3月31日まで)
平成24年 4月	東北大学総長補佐(平成25年3月31日まで) 東北大学経営協議会委員(平成25年3月31日まで)

主な研究業績：

- ・ Anger, blame, and dimensions of perceived norm violation: Culture, gender, and relationships [Journal of Applied Social Psychology, 34, (2004), 1857-1603] K. Ohbuchi, T. Tamura, B. M. Quigley, J. T. Tedeschi, N. Madi, M. H. Bond & A. Mummendey
- ・ Procedural justice and the assessment of civil justice in Japan [Law and Society Review, 39, (2005), 875-891] K. Ohbuchi, I. Sugawara, K. Teshigahara, & K. Imazai

受 賞 歴：平成11年度日本心理学会優秀論文賞
第6回日本社会心理学会優秀論文賞

著 書：

- ・ Ohbuchi, K. 【編著】『Social Justice in Japan』(Trans Pacific Press, 2007-2-20 出版)
- ・ 大渕憲一 【編著】『葛藤と紛争の社会心理学』(北大路書房, 2008-9-10 出版)
- ・ 大渕憲一 【著】『謝罪の研究』(東北大学出版会, 2010-3-15 出版)

法学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) わたなべ たつのり

候補者名：渡辺 達徳

任 期：平成25年 4月 1日～平成27年 3月31日（新任）

生年月日：昭和30年 6月15日（57歳）

出身地：神奈川県横浜市

部 局 名：法学研究科

所属専攻・学科名：総合法制専攻

講座（部門）名：現代市民講座

専門分野（専攻）名：民法

略 歴：

昭和54年	3月	中央大学法学部卒業
昭和62年	3月	中央大学大学院法学研究科博士課程前期課程修了
平成 2年	3月	中央大学大学院法学研究科博士課程後期課程単位修得退学
平成 2年	4月	小樽商科大学短期大学部商業学科講師
平成 3年	10月	小樽商科大学商学部助教授
平成 8年	4月	中央大学法学部助教授
平成11年	4月	中央大学法学部教授
平成16年	4月	中央大学大学院法学研究科教授
平成21年	4月	東北大学大学院法学研究科教授
平成23年	4月	東北大学教育研究評議会評議員（平成25年3月まで）

その他、法務省新司法試験考査委員などを歴任

主な研究業績：契約法理論の国際的・比較法的研究

消費者信用法制の研究

発展途上国の法整備支援

著 書：

1. 新民法講義5 事務管理・不当利得・不法行為法 [成文堂, (2011)] 渡辺達徳, 石崎泰雄 編著
2. 新民法講義2 物権・担保物権法 [成文堂, (2010)] 渡辺達徳, 石崎泰雄 編著
3. 法学講義 民法5 契約 [悠々社, (2008)] 渡辺達徳, 池田真朗, 沖野眞巳, 良永和隆, 北居功, 上田誠一郎, 和田安夫, 橋本恭宏, 鎌野邦樹
4. 債権総論 [弘文堂, (2007)] 渡辺達徳, 野澤正充

5. マルシェ債権各論 [嵯峨野書院, (2007)] 渡辺達徳, 宮本健蔵, 湯川益英, 藤井俊二, 堀田泰司, 花本広志, 澤野和博, 大木満
6. 民法渡辺道場 [日本評論社, (2005)] 渡辺達徳
7. コンサイス法律学用語辞典 [三省堂, (2003)] 渡辺達徳 他
8. ドイツ民法・国際私法論集 [中央大学出版部, (2003)] 渡辺達徳, 野澤紀雅, 宮本ともみ, 佐藤文彦, 山内惟介
9. 契約法における現代化の課題 [法政大学出版局, (2002)] 渡辺達徳, 岡孝, 青野博之, 錢偉栄 他
10. 現代アメリカ契約法 [弘文堂, (2000)] 渡辺達徳, 西川理恵子, 上田誠一郎, 滝沢昌彦, 高谷知佐子, 曾野裕夫, 鹿野菜穂子

経済学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) おおたき せいいち

候補者名：大 滝 精 一

任 期：平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日 (再任)

生年月日：昭和27年 9月 8日 (60歳)

出 身 地：長野県岡谷市

部 局 名：経済学研究科

所属専攻・学科名：経済経営学専攻

講座 (部門) 名：現代経営講座

専門分野 (専攻) 名：経営政策

略 歴：

- 昭和52年 3月 東北大学大学院経済学研究科博士課程前期2年の課程修了
昭和55年 3月 東北大学大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程単位修得退学
昭和55年 4月 専修大学経営学部専任講師
昭和58年 4月 専修大学経営学部助教授
昭和62年10月 東北大学経済学部助教授
平成 4年 4月 東北大学経済学部教授
平成11年 4月 東北大学大学院経済学研究科教授
平成22年 4月 国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員
(平成25年3月31日まで)
平成22年 4月 東北大学大学院経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長
(平成23年3月31日まで)
平成23年 4月 東北大学大学院経済学研究科長・経済学部長
(平成25年3月31日まで)

主な研究業績：「キャズムを乗り越える」大滝精一『産学官連携ジャーナル』(査読無)

Vol. 5, No. 2, 4-6, 2009

「地域環境力を育む企業と地域のコラボレーション」大滝精一『EPO通信』(査読無)

No. 8, 1-4, 2009

「ソーシャル・アントレプレナーシップ:アントレプレナーシップ研究の新しいフロンティア」大滝精一『ベンチャーズレビュー』(査読無)Vol. 35, 2006

「農商工連携によるビジネス・モデルの創出とバリューチェーンの再構築」東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアム編『農商工連携プロデューサー育成塾テキスト』3-13ページ, 2009

「企業とNPOとのコラボレーション」『マネジメント・トレンド』経営研究所,

Vol. 6, No1, 2001, pp. 45-59

受 賞 歴：

なし

著 書：『ケースに学ぶ経営学(新版)』(共著)有斐閣(2007)

- 『経営戦略(新版)：論理性・創造性・社会性の追求』(共著)有斐閣(2006)
- 『ニューズリーダーの組織論』(共著)泉分堂(2002)
- 『事業創造のダイナミクス』(共著)白桃書房(1989)
- 『金融とコンサルティングの組織』(共編著)第一法規(1989)

理学研究科長候補者の略歴等

候補者名：福^{ふく}村^{むら}裕^{ひろ}史^し

任 期：平成25年4月1日～平成26年3月31日（再任）

生年月日：昭和28年3月15日（59歳）

出身地：青森県八戸市（出生地：東京都）

部 局 名：理学研究科

所属専攻名：化学専攻

講 座 名：物理化学講座

専門分野名：有機物理化学

略 歴：

- 昭和58年 3月 東北大学大学院理学研究科博士課程修了
- 昭和58年 4月 通商産業省工業技術院大阪工業技術試験所研究員
- 昭和62年10月 通商産業省工業技術院大阪工業技術試験所主任研究官
- 昭和63年 4月 京都工芸繊維大学繊維学部助手
- 平成 3年 4月 大阪大学工学部助手
- 平成 4年 4月 大阪大学工学部講師
- 平成 7年 4月 大阪大学工学部助教授
- 平成10年10月 東北大学大学院理学研究科教授
- 平成21年 4月 東北大学評議員（平成23年3月まで）
- 平成23年 4月 東北大学大学院理学研究科長・理学部長（平成25年3月まで）

主な研究業績：

- ① レーザーアブレーションの機構解明
“The mechanism of dopant-induced laser ablation...” *Chem. Phys. Lett.* **221**, 373-378 (1994).
- ② フェムト秒レーザー誘起パルスX線発生とその応用
“Ultrafast X-ray pulse generation by focusing...” *Appl. Phys. Lett.*, **80**, 3925-3927 (2002).
- ③ レーザー誘起相分離ダイナミクス
“Dynamics of Liquid Structure Relaxation...” *J. Phys. Chem. B*, **107**, 11411-11418 (2003).

受 賞 歴：

- 光化学協会賞「有機固体・表面のレーザー光化学」2000年
- 日本化学会学術賞「高強度レーザーパルスによって誘起される凝縮系のダイナミクス」2005年

著 書：

Molecular Nano Dynamics, ed. by H. Fukumura et. al., Wiley-VCH, 2009.

医学系研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) (おおうち のりあき)

候補者名：大内 憲 明

任 期：平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日 (再任)

生年月日：昭和26年 5月 3日 (61歳)

出身地：福島県飯舘村

部 局 名：医学系研究科

所属専攻・学科名：医科学専攻

講座(部門)名：外科病態学講座(腫瘍外科学分野)

専門分野(専攻)名：外科学、腫瘍外科学、がん疫学、ナノ医科学

略 歴：

- | | |
|----------|--|
| 昭和53年 3月 | 東北大学医学部卒業 |
| 昭和59年 3月 | 東北大学大学院医学研究科修了(医学博士) |
| 昭和59年 9月 | 米国NIH(客員研究員) |
| 昭和63年 7月 | 東北大学医学部附属病院助手 |
| 平成 7年11月 | 東北大学医学部附属病院講師 |
| 平成11年 9月 | 東北大学大学院医学系研究科・教授 |
| 平成14年11月 | 東北大学医学部附属病院副病院長
(期間：平成16年11月まで) |
| 平成18年 4月 | 厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業
「がん対策のための戦略研究」リーダー
(期間：平成23年 3月まで) |
| 平成23年 4月 | 東北大学病院がんセンター長
(期間：平成24年 3月まで) |
| 平成24年 4月 | 東北大学大学院医学系研究科長・医学部長
(期間：平成25年 3月まで) |

主な研究業績：乳癌の生物学的特性の解明、整容性を重視した乳房温存手術の開発、マンモグラフィ検診の普及、ナノ・バイオの医療応用、超音波併用乳癌検診の有効性の研究(J-START)

受賞歴：第3回、第8回黒川利雄がん研究基金賞
第21回三越医学賞
第27回手術手技研究会奨励研究賞
第1回朝日がん大賞
日本医師会医学研究助成費賞

著 書 :

主な著書

1. Ohuchi N, et al (total 7, 1st). Differential expression of DF3 antigen between papillary carcinoma and benign papillary lesions of the breast. In: R Ceriani (ed), *Breast Cancer Immunodiagnosis and Therapy*. Plenum Press, New York, 1989, pp. 183-192.
2. Ohuchi N, et al (total 4, 1st). Advances in diagnosis of breast cancer: mammography for screening and MRI for breast-conserving surgery. R. Ros, T Kakizoe (eds.) "Innovative achievements in cancer imaging". The 33rd International Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund. pp. 30-34, 2003.
3. Ohuchi N, et al (total 7, 1st). Development of bio-imaging with functional nano-objects. In: Yamaguchi T (ed.), *Nano-Biomedical Engineering 2009, Proceedings of the Tohoku University Global Centre of Excellence Programme*, Imperial College Press, pp. 361-372, 2009.
4. 大内憲明 (編)。実践デジタルマンモグラフィ：基礎から診断まで、中山書店、東京、2006
5. 大内憲明 (編)。乳癌：基礎・臨床研究のアップデート、日本臨床社、東京、2007
6. 大内憲明 (編)。マンモグラフィによる乳がん検診の手引き-精度管理マニュアル、第5版、日本医事新報社、東京、2011

主な原著論文

1. Ohuchi N, et al (total 3, 1st). Possible cancerous change of intraductal papillomas of the breast: a 3-D reconstruction of 25 cases. *Cancer*, 54: 605-11, 1984.
2. Ohuchi N, et al (total 6, 1st). Expression of the 21,000 molecular weight ras protein in a spectrum of benign and malignant mammary tissues. *Cancer Research*, 46:2511-19, 1986.
3. Ohuchi N, et al (total 9, 1st). Enhanced expression of c-Ha-ras p21 in stomach adenocarcinomas defined by immunoassays using monoclonal antibodies and in situ hybridization. *Cancer Research*, 47:1413-20, 1987.
4. Ohuchi N, Page DL, et al (total 6, 1st). Expression of tumor-associated antigen (DF3) in atypical hyperplasias and in situ carcinomas of the breast. *J Natl Cancer Inst*, 79:109-17, 1987.
5. Ohuchi N, Wunderlich D. et al (total 6, 1st). Differential expression of CEA in early gastric adenocarcinomas versus benign gastric lesions defined by monoclonal antibodies. *Cancer Research*, 47:3565-71, 1987.
6. Ohuchi N, Simpson JF, et al (total 4, 1st). Complementation of anti-CEA and anti-TAG-72 monoclonal antibodies in reactivity to human gastric adenocarcinomas. *Int J Cancer*, 40:726-33, 1987.
7. Ohuchi N, et al (total 3, 1st). Management of ductal carcinoma in situ with nipple discharge. *Cancer* 74:1294-1302, 1994.
8. Kong D, Ohuchi N, et al (total 18, 10th) PTEN/MMAC1 is frequently mutated in primary endometrial carcinomas. *Nature Genetics*, 17: 143-44, 1997
9. Amano G, Ohuchi N, et al (total 5, 2nd) Correlation of 3D-MRI with meticulous histopathologic map concerning carcinoma extension in 58 breast cancer patients. *Breast Cancer Res Treat*, 60:43-55, 2000.
10. Takeda M, Ohuchi N, et al (total 8, last). Biophoton detection as a novel technique for cancer imaging. *Cancer Science*, 95 (8): 656-61, 2004
11. Nakajima M, Ohuchi N, et al (total 5, last) Nano-sized fluorescent particle as a new tracer for sentinel node detection. *Cancer Science*, 96 (6): 353-56, 2005.
12. Ohnuki K, Ohuchi N. et al (total 6, last). Cost-effectiveness analysis of screening modalities for breast cancer in Japan with special reference to women aged 40-49. *Cancer Science*, 97: 1242-47, 2006
13. Li-Shishido S, Ohuchi N, et al (total 5, last). Reduction in nonfluorescence state of quantum dots on an immunofluorescence staining. *Biochem Biophys Res Com*, 351 (1): 7-13, 2006
14. Tada H, Ohuchi N, et al (total 4, last). In vivo real-time tracking of single quantum dots conjugated with monoclonal anti-HER2 antibody in tumors of mice. *Cancer Research*, 67 (3): 1138-1144, 2007.
15. Kawai M, Ohuchi N, et al (total 9, last). Effect of screening mammography on breast cancer survival in comparison to other detection methods: a retrospective cohort study. *Cancer Science*, 100 (8): 1479-84, 2009
16. Gonda K, Ohuchi N, et al (total 4, 3rd). In vivo nano-imaging of membrane dynamics in metastatic tumor cells using quantum dots. *J Biol Chem*, 285: 2750-2757, 2010
17. Hikage M, Ohuchi N, et al (total 9, last), Nano-imaging of the lymph network structure with quantum dots. *Nanotechnology*, 21 (18): 185103. Epub 2010 Apr 14.
18. Saika K, Ohuchi N, et al (total 4, 3rd). Breast cancer screening. *Ann Intern Med*. 153 (9): 618-19, 2010.
19. Ohuchi N, et al (total 6, 1st). Randomized Controlled Trial on Effectiveness of Ultrasonography Screening for Breast Cancer in Women Aged 40-49 (J-START): Research Design. *Jpn J Clin Oncol*. 41: 275-77, 2011.
20. Hamada Y, Ohuchi N, et al (total 8, last). In vivo imaging of the molecular distribution of the VEGF receptor during angiogenesis in a mouse model of ischemia. *Blood*. 2011 Sep 29; 118 (13): e93-e100.

薬学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな)

候補者名： おお しま よし てる
大 島 吉 輝

任 期： 平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日 (再任)

生年月日： 昭和27年12月 1日 (60歳)

出身地： 新潟県新発田市

本籍地： 新潟県新発田市

部局名： 薬学研究科

所属専攻・学科名： 大学院薬学研究科創薬化学専攻

講座(部門)名： 分子解析化学講座医薬資源化学分野

専門分野

(専攻)名： 天然物化学

略 歴： (大卒以後の略歴)

昭50年	3月	東北大学医学部薬学科卒業
52年	3月	東北大学大学院薬学研究科博士課程前期2年の課程修了
52年	4月	東北大学薬学部助手
平4年	3月	東北大学薬学部助教授
	4月	青森大学工学部助教授
8年	4月	東北大学薬学部教授
10年	4月	東北大学薬学部薬学科長(期間：平成11年3月まで)
11年	4月	東北大学大学院薬学研究科教授
12年	4月	東北大学薬学部薬学科長(期間：平成13年3月まで)
14年	4月	東北大学薬学部薬学科長(期間：平成16年3月まで)
16年	4月	東北大学大学院薬学研究科附属薬用植物園長(期間：平成26年3月まで)
16年	4月	東北大学大学院薬学研究科創薬化学専攻長(期間：平成23年3月まで)
17年	4月	国立大学法人東北大学総長特任補佐(期間：平成18年3月まで)
20年	4月	国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員(期間：平成23年3月まで)
22年	4月	東北大学大学院薬学研究科分子薬科学専攻長(期間：平成23年3月まで)
23年	4月	東北大学大学院薬学研究科長(期間：平成25年3月まで)

主 な

研究業績：

- ・植物、微生物の薬理活性成分の単離と構造解析
- ・細胞性粘菌の生理活性成分の化学的研究
- ・天然物を基盤とした新規抗感染症薬の開発研究
- ・エピジェネティック制御を利用した天然物探索

受賞歴： なし

著 書： 「モデル生物：細胞性粘菌」分担執筆(前田靖男編)アイピーシー、2000年
「(ベーシック薬学教科書シリーズ)生薬学・天然物化学」分担執筆(吉川雅之編)化学同人、2007年

農学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) こまい みちお
候補者名： 駒 井 三千夫
任 期： 平成25年4月1日～平成27年3月31日（新任）
生年月日： 昭和28年11月28日（59歳）
出身地： 宮城県栗原市
部 局 名： 農学研究科
所属専攻・学科名： 生物産業創成科学専攻
講座（部門）名： 食品機能健康科学
専門分野（専攻）名： 栄養学

略 歴：

昭和51年3月 東北大学農学部卒業
昭和51年4月 東北大学大学院農学研究科修士課程入学
昭和53年3月 同修了
昭和53年4月 東北大学大学院農学研究科博士課程進学
昭和56年4月 同研究指導認定退学
昭和58年3月 同修了
昭和56年4月 東北大学農学部助手
平成8年4月 東北大学農学部助教授
平成11年4月 東北大学大学院農学研究科助教授
平成14年7月 東北大学大学院農学研究科教授

主な研究業績：

ビタミンK同族体の新規生理機能の解明
味覚機能維持への亜鉛酵素の寄与の解明

受 賞 歴：

日本味と匂学会第14回高砂研究奨励賞（1998年）

著 書：

ビタミン総合辞典（分担執筆）日本ビタミン学会編 朝倉書店 2010年
わかりやすい食品機能栄養学（共著）三共出版 2010年
味のしくみ（分子生物学）、栄養・食糧学データハンドブック（共著）
同文書院 2006年

国際文化研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) くろだ たかし

候補者名：黒田 卓

任 期：平成25年4月1日～平成27年3月31日（新任）

生年月日：昭和30年9月4日生（57歳）

出身地：京都府京都市

部 局 名：国際文化研究科

所属専攻：国際地域文化論専攻イスラム圏研究講座

専門分野：中東近現代史

略 歴：

昭和55年 3月 京都大学文学部卒業

昭和57年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

昭和60年 3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学

昭和62年 4月 香川大学教育学部助手

昭和63年10月 香川大学教育学部講師

平成 元年10月 香川大学教育学部助教授

平成 5年 4月 東北大学大学院国際文化研究科助教授

平成19年 4月 東北大学大学院国際文化研究科教授

平成21年 4月 東北大学大学院国際文化研究科長補佐（平成23年3月まで）

主な研究業績：

（論文）

1. イランソヴェト社会主義共和国（「ギーラーン共和国」）におけるコムニスト政変
岡洋樹編 歴史の再定義 東北アジア研究センター叢書第45号(2011), 133-168
2. ヘイダル・ハーンの事績再考 上智アジア学,(25),(2008),192-215
3. 変容のなかのイスラーム主義.インターカルチュラル,(5),(2007),56-61
4. イラン人下級官僚が見たジャンギャリー＝ボリシェヴィキ同盟.平成14年度～平成17年度科研費補助金基盤研究A研究成果報告書,(2006),189-203
5. イラン立憲革命百周年記念国際学会報告.イスラム世界,66,(2006),48-54
6. ジャンギャリー運動末期におけるイラン・ソ連関係の一断面 ―関連ロシア語文書の紹介―.中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像、東北大学東北アジア研究センター,(2003),95-110
7. Negahi bar Ravabet-e Khareji-ye Iran va Shuravi dar Ertebat ba Nehzat-e Jangal
Bulletin of Centre for Graduate International Studies, Faculty of Law and Political Science, University of Tehran,3(1),(2002),51-52

8. 新聞のなかのイラン立憲革命.岩波講座世界歴史（岩波書店）,23,(1999),83-109
9. 八尾師誠著『イラン近代の原像ーサッタール・ハーンの革命』.歴史学研究,726,(1999),47-50
10. 19世紀末から20世紀初めにかけてのアゼルバイジャンの新聞についてーA.アガーエフを中心にー.木村喜博編「現代中央アジアの社会変容」（東北大学学際科学研究センター）,(1999),127-143
- 11 19世紀末から20世紀初めにかけてのアゼルバイジャンの新聞について -A.アガーエフを中心に-.「中央アジアの社会変容に関する総合研究」中間報告,東北大学学際科学研究センター,(1998),119-134

受賞歴：

著 書：

1. 朝倉世界地理講座第6巻西アジア.朝倉書店,(2010)黒田 卓,後藤 明,木村喜博,安田喜憲,他25名 ISBN978-4-254-16796-2
2. 中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像.東北大学東北アジア研究センター,(2003)黒田 卓,高倉浩樹,塩谷昌史
3. 岩波イスラーム辞典.岩波書店,(2002)黒田 卓、大塚和夫、小杉 泰、小松久男、東長 靖、山内昌之、他多数
4. 世界民族事典.弘文堂,(2000)黒田 卓、織部恒雄、他多数
5. アジアの歴史と文化第9巻西アジア.同朋舎,(2000)黒田 卓,間野英二他15名
6. 世界民族問題事典.平凡社,(1995)黒田 卓、梅棹忠夫、松原正毅、他多数
7. 事典イスラームの都市性.亜紀書房,(1992)黒田 卓、板垣雄三、後藤 明、他多数
8. 中東世界ー国際問題と民族問題ー.世界思想社,(1992)黒田 卓,岡崎正孝他12名

8. 新聞のなかのイラン立憲革命.岩波講座世界歴史（岩波書店）,23,(1999),83-109
9. 八尾師誠著『イラン近代の原像ーサッタール・ハーンの革命』.歴史学研究,726,(1999),47-50
10. 19世紀末から20世紀初めにかけてのアゼルバイジャンの新聞についてーA.アガーエフを中心にー.木村喜博編「現代中央アジアの社会変容」（東北大学学際科学研究センター）,(1999),127-143
- 11 19世紀末から20世紀初めにかけてのアゼルバイジャンの新聞について -A.アガーエフを中心に-.「中央アジアの社会変容に関する総合研究」中間報告,東北大学学際科学研究センター,(1998),119-134

受賞歴：

著 書：

1. 朝倉世界地理講座第6巻西アジア.朝倉書店,(2010)黒田 卓,後藤 明,木村喜博,安田喜憲,他25名 ISBN978-4-254-16796-2
2. 中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像.東北大学東北アジア研究センター,(2003)黒田 卓,高倉浩樹,塩谷昌史
3. 岩波イスラーム辞典.岩波書店,(2002)黒田 卓、大塚和夫、小杉 泰、小松久男、東長 靖、山内昌之、他多数
4. 世界民族事典.弘文堂,(2000)黒田 卓、織部恒雄、他多数
5. アジアの歴史と文化第9巻西アジア.同朋舎,(2000)黒田 卓,間野英二他15名
6. 世界民族問題事典.平凡社,(1995)黒田 卓、梅棹忠夫、松原正毅、他多数
7. 事典イスラームの都市性.亜紀書房,(1992)黒田 卓、板垣雄三、後藤 明、他多数
8. 中東世界ー国際問題と民族問題ー.世界思想社,(1992)黒田 卓,岡崎正孝他12名

生命科学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) たかはし ひでゆき

候補者名：高橋 秀幸

任期：平成25年 4月 1日～平成27年 3月31日（再任）

生年月日：昭和29年10月 8日（58歳）

出身地：山形県真室川町

部局名：生命科学研究科

所属専攻・学科名：生態システム生命科学専攻

講座（部門）名：環境遺伝生態学講座

専門分野（専攻）名：宇宙環境適応生態分野

略歴：

昭和57年 3月	東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了（農博）
昭和57年 4月	Wake Forest大学（米国）生物学部博士研究員
昭和62年 1月	東北大学農学研究所助手
昭和63年 4月	東北大学遺伝生態研究センター助手
平成 4年 7月	東北大学遺伝生態研究センター助教授
平成 8年 5月	東北大学遺伝生態研究センター教授
平成13年 4月	東北大学大学院生命科学研究科教授
平成23年 4月	東北大学大学院生命科学研究科長（平成25年3月まで）

主な研究業績：

植物が重力を利用して成長を制御するしくみを、宇宙実験や生理・分子生物学的解析から明らかにするとともに、根が高水分側に伸長する水分屈性能をもつことを証明し、その制御分子を発見した。

受賞歴：

第一回日本宇宙生物科学会賞
第一回日本根研究会学術功労賞
山田科学振興財団奨励賞
武田科学振興財団研究奨励賞
植物化学調節学会2008年度学会賞、他

医工学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) まつ き ひで とし

候補者名：松 木 英 敏

任 期：平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日 (再任)

生年月日：昭和25年11月30日 (62歳)

出 身 地：宮城県仙台市

部 局 名：医工学研究科

所属専攻・学科名：医工学専攻

講 座 名：治療医工学講座

専門分野名：生体電磁波医工学分野

略 歴：

昭和55年	3月	東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程修了
昭和55年	4月	東北大学工学部助手
昭和60年	7月	東北大学工学部助教授
平成 9年	4月	東北大学大学院工学研究科助教授に配置換
平成10年	2月	東北大学大学院工学研究科教授
平成20年	4月	東北大学大学院医工学研究科教授に配置換
平成20年	4月	東北大学評議員 (平成23年3月まで)
平成23年	4月	東北大学大学院医工学研究科長 (平成25年3月まで)

主な研究業績：

高効率の非接触給電方式を編み出し、世界最高水準の伝送効率を実証し、人工心臓をはじめとする体内埋込電磁型人工臓器の長期駆動を可能としたほか、電気刺激装置やハイパーサーミア装置など、新しい治療機器の開発に貢献した。さらに、本給電方式は、医療分野にとどまらず、携帯機器や電気自動車などに対する次世代ワイヤレス充電方式として産業界から注目されている。

受 賞 歴：

電気学会産業応用部門活動功労賞 (1997年)

著 書：

1. 松木英敏：生体電磁工学概論、コロナ社、1999
2. 松木英敏：電磁エネルギー変換工学 (共著 松木英敏、一ノ倉理)、朝倉書店、2010

電気通信研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) (おお の ひで お)

候補者名： 大野英男

任期： 平成25年4月1日～平成28年3月31日(新任)

生年月日： 昭和29年12月18日(58歳)

出身地： 東京都

部局名： 電気通信研究所

所属専攻学科名：

講座(部門)名： ナノ・スピン実験施設 半導体スピントロニクス研究室

専門分野(専攻)名： 半導体物理・半導体工学、スピントロニクス

略 歴：

- | | | |
|----------|----|---|
| 昭和52年 | 3月 | 東京大学工学部電子工学科卒業 |
| 昭和54年 | 3月 | 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了 |
| 昭和57年 | 3月 | 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
工学博士(東京大学) |
| 昭和57年 | 4月 | 北海道大学工学部講師 |
| 昭和58年 | 4月 | 北海道大学工学部助教授 |
| 平成6年 | 7月 | 東北大学工学部教授 |
| 平成7年 | 7月 | 東北大学電気通信研究所附属超高密度・高速知能システム
実験施設教授 |
| 平成16年 | 4月 | 東北大学電気通信研究所附属ナノ・スピン実験施設教授 |
| 平成16年 | 4月 | 東北大学電気通信研究所附属ナノ・スピン実験施設長
(～平成22年3月まで) |
| 平成19年 | 4月 | 東北大学教育研究評議会評議員(～平成26年3月まで) |
| 平成20年 | 4月 | 東北大学ディスティングイッシュト
プロフェッサー(～平成23年3月) |
| 平成22年 | 3月 | 内閣府 最先端研究開発支援プログラム「省エネルギー・
スピントロニクス論理集積回路の研究開発」中心研究者 |
| 平成22年 | 3月 | 東北大学省エネルギー・スピントロニクス集積化システム
センター長(～平成26年3月まで) |
| 平成23年10月 | | 東北大学ディスティングイッシュト
プロフェッサー(～平成26年3月まで) |
| 平成24年 | 4月 | 東北大学原子分子材料科学高等研究機構 主任研究者 |
| 平成24年 | 4月 | 東北大学電気通信研究所附属ナノ・スピン実験施設長
(～平成26年3月まで) |

主な研究業績：

III-V 族強磁性半導体の創成と強磁性発現機構の解明。強磁性体からのスピン注入の実証。電界制御スピントロニクスデバイスの実現。高性能磁気トンネル素子の開発と集積回路応用。

受賞歴：

- 平成10年 日本IBM科学賞
- 平成15年 The IUPAP Magnetism Prize
- 平成16年 Institute of Physics (IOP)フェロー
- 平成17年 日本学士院賞
- 平成17年 東北大学総長特別賞
- 平成17年 2005 Agilent Technologies Europhysics Prize
- 平成18年 中国科学院半導体研究所 名誉教授号
- 平成19年 応用物理学会フェロー
- 平成20年 IEEE Magnetics Society Distinguished Lecturer for 2009
- 平成23年 Thomson Reuters Citation Laureate
- 平成24年 応用物理学会業績賞
- 平成24年 2012 IEEE David Sarnoff Award
- 平成24年 American Physical Society (APS)フェロー

著書等：

著書

1. "Field-effect transistors" in *GaInAsP Alloy Semiconductors* (ed. T. Pearsall, John Wiley and Sons), 1982, pp. 437-458.
2. 「超高速化合物半導体デバイス」(第2章「化合物半導体の物性」)、(大森正道編、培風館)、1986年、pp.14-56.
3. 「III-V族化合物半導体」(第8章「表面界面の物性」)、(赤碕勇編、培風館)、1994年、pp. 195-217.
4. 「半導体結晶成長」 大野英男編著、コロナ社、1999年.
5. "III-V Ferromagnetic Semiconductors," in *Handbook of Magnetic Materials* (ed. K. H. J. Buschow, North-Holland, 2002), Vol. 14, pp. 1-87
6. "Spintronic Properties of Ferromagnetic Semiconductors" in *Spintronics, Semiconductors and Semimetals* (eds. T. Dietl, D. D. Awschalom, M. Kaminska, and H. Ohno, Elsevier, 2008), pp. 207-240

学術論文

1. H. Ohno, "Making nonmagnetic semiconductors ferromagnetic," *Science*, vol. 281, pp. 951-956, 1998.
2. H. Ohno, D. Chiba, F. Matsukura, T. Omiya, E. Abe, T. Dietl, Y. Ohno, and K. Ohtani, "Electric-field control of ferromagnetism," *Nature*, vol. 408, pp. 944-946, 2000.
3. M. Yamanouchi, D. Chiba, F. Matsukura, and H. Ohno, "Current-induced domain-wall switching in a ferromagnetic semiconductor structure," *Nature*, vol. 428, pp. 539 - 542, 1 April 2004.
4. S. Ikeda, K. Miura, H. Yamamoto, K. Mizunuma, H. D. Gan, M. Endo, S. Kanai, J. Hayakawa, F. Matsukura, and H. Ohno, "A perpendicular-anisotropy CoFeB–MgO magnetic tunnel junction," *Nature Materials*, vol. 9, pp. 721-724, August 2010.
5. S. Kanai, M. Yamanouchi, S. Ikeda, Y. Nakatani, F. Matsukura, and H. Ohno, "Electric field-induced magnetization reversal in a perpendicular-anisotropy CoFeB-MgO magnetic tunnel junction", *Applied Physics Letters*, vol. 101, pp. 122403 (1)-122403(3), September 2012.

多元物質科学研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) かわむら じゅんいち

候補者名：河村 純一

任期：平成25年 4月 1日～平成27年 3月31日（再任）

生年月日：昭和28年 5月28日（59歳）

出身地：長野県小県郡（現 上田市）

部局名：多元物質科学研究所

講座（部門）名：サステナブル理工学研究センター

専門分野（専攻）名：固体イオン物理研究分野

略歴：

昭和52年 3月25日 北海道大学 理学部化学第2学科 卒業
昭和54年 3月24日 北海道大学大学院理学研究科化学第2専攻 修士課程 修了
昭和56年 7月15日 北海道大学大学院理学研究科化学第2専攻 中退
昭和56年 7月16日 北海道大学理学部化学第2学科液体化学講座 助手
平成 2年10月 1日 北海道大学理学部化学第2学科 液体化学講座 講師
平成 7年 4月 1日 北海道大学大学院理学研究科 講師
平成12年 4月 1日 東北大学科学計測研究所 助教授
平成13年 4月 1日 東北大学多元物質科学研究所 助教授（組織替）
平成16年 4月 1日 東北大学多元物質科学研究所 教授
平成20年 4月 1日 東北大学多元物質科学研究所副研究所長
（平成22年3月31日まで）
平成22年 4月 1日 東北大学多元物質科学研究所長（平成25年3月31日まで）

主な研究業績：

1. Junichi Kawamura, Mitsuo Shimoji, and Hideaki Hoshino. "The Ionic Conductivity and Thermoelectric Power of the Superionic Conductor Ag₃SBr." J.Phys.Soc.Jpn. 50 (1981) 194-200.
2. Junichi Kawamura and Mitsuo Shimoji. "Ionic Conductivity and Glass Transition in the Superionic Conducting Glass (AgI)_{1-x}(Ag₂MoO₄)_x(x=0.25,0.3,0.35): I. Experimental Results in the Liquid and Glassy States." J.Non-Cryst.Solids 88 (1986) 281-294.
3. Junichi Kawamura and Mitsuo Shimoji. "Ionic Conductivity and Glass Transition in the Superionic Conducting Glass (AgI)_{1-x}(Ag₂MoO₄)_x(x=0.25,0.3,0.35): II. Structural Relaxation and Excess-Free-Volume Theory." J.Non-Cryst.Solids 88 (1986) 295-310.
4. Junichi Kawamura and Mitsuo Shimoji. "The A.C. Conductivity of Superionic Conducting Glasses (AgI)_x(Ag₄P₂O₇)_{1-x} (x=0.8,0.75,0.7); Experiment and Analysis based on the Generalized Langevin Equation." J.Non-Cryst. Solids 79 (1986) 367-381.

5. Junichi Kawamura, Rikito Sato, and Shinya Mishina. "AC Conductivity of Li₂O-Na₂O-B₂O₃ Mixed-Alkali Glasses; Analysis due to Transition Rate Distribution." *Solid State Ionics* 25 (1987) 155-164.
6. Junichi Kawamura and Mitsuo Shimoji. "Glass Transition and AC Conductivity of Ag⁺ Conducting Glasses." *Materials Chem.Phys.* 23 (1989) 99-120.
7. Junichi Kawamura and Yasunao Oyama. "Microwave conductivity of AgI-Ag₂MoO₄ glasses." *Solid State Ionics* 35 (1989) 311-315.
8. Junichi Kawamura and Shuichi Hiyama. "New Superionic Glasses Based on Silver Iodide with Organic Monomer Ions." *Solid State Ionics* 53-56 (1992) 1227-1231.
9. Yasunao Oyama and Junichi Kawamura. "Ionic Conductivity of AgI based Superionic Glasses under Hydrostatic Pressure." *Solid State Ionics* 53-56 (1992) 1221-1226.
10. Junichi Kawamura, Koichi Arakawa, Takashi Kamiyama, and Yoshio Nakamura. "Neutron scattering from AgI-CsI-(CH₃)₄NI glasses." *Solid State Ionics* 79 (1995) 264-272.
11. P.O. Maurin, J. Dupuy-Philon, J.F. Jal, N. Asahi, T. Kamiyama, J. Kawamura, and Y. Nakamura. "Dynamics and structure in good glass-formers LiCl-RH₂O : an NMR and quasielastic neutron scattering study." *Prog.Theor.Phys.* 126 (1996) 141-146.
12. Junichi Kawamura, Jiro Iriyama, and Yoshio Nakamura. "Photoelectrochemical properties of multi-layered thin films composed of chalcogenide and superionic conductor glasses." *Solid State Ionics* 90 (1996) 303-306.
13. Junichi Kawamura, Takatoshi Itagaki, Koichi Arakawa, Takashi Kamiyama, and Yoshio Nakamura. "Intermediate range structure of organic-inorganic mixed superionic conductor glasses: AgI and tetraalkylammonium iodides." *Solid State Ionics* 86-88 (1996) 517-520.
14. 河村純一, "有機・無機複合系高イオン導電体ガラス." *New Glass* 12 (1997) 10-16.
15. P.O. Maurin, J.F. Jal, J. Dupuy-Philon, N. Asahi, J. Kawamura, T. Kamiyama, and Y. Nakamura. "NMR study of the dynamics and structure of a good glass former LiCl-RH₂O." *Ber.Bunsenges.Phys.Chem.* 102 (1998) 152-155.
16. Hirokazu Hayashi, Eichiro Shudo, Junichi Kawamura, and Yoshio Nakamura. "Glass formation and ac conductivity in LiNO₃-1,3-diaminopropane." *J.Non-Cryst.Solids* 242 (1998) 33-39.
17. Junichi Kawamura, Naoaki Kuwata, and Yoshio Nakamura. "Frequency dependent conductivity of organic-inorganic mixed superionic conductor glasses." *Solid State Ionics* 113-115 (1998) 703-709.
18. Junichi Kawamura, Hiroyuki Itoigawa, Takashi Kamiyama, and Yoshio Nakamura. "Ag K-edge EXAFS of AgI-alkylammonium iodide glasses." *Solid State Ionics* 121 (1999) 37-41.
19. Megumi Hosono, Junichi Kawamura, Hiroyuki Itoigawa, Naoaki Kuwata, Takashi Kamiyama, and Yoshio Nakamura. "Structure and ionic conductivity of rapidly quenched AgI-Ag₂WO₄ superionic conductor glasses." *J.Non-Cryst.Solids* 244 (1999) 81-88.
20. Hideki Maekawa, Naohito Kashii, Junichi Kawamura, Yukio Hinatsu, and Tsutomu Yamamura. "High temperature ¹H NMR study of proton conducting oxide SrCe_{0.95}Y_{0.05}H_{0.004}O_{3-d}." *Solid State Ionics* 122 (1999) 231-236.
21. Manabu Kawasaki, Junichi Kawamura, Yoshio Nakamura, and Masaru Aniya. "Ionic conductivity of Ag_x(GeSe₃)_{1-x} (0<x<0.571) glasses." *Solid State Ionics* 123 (1999) 259-269.
22. Naoaki Kuwata, Junichi Kawamura, Yoshio Nakamura, Kazuhiro Okuda, Masahiro Tatsumisago, and Tsutomu Minami. "Ag-109 NMR study of AgI-based glasses containing frozen a-AgI nanocrystals." *Solid State Ionics* 136-137 (2000) 1061-1066.
23. Junichi Kawamura, Kai Morota, Naoaki Kuwata, Yoshio Nakamura, Hideki Maekawa, Takeshi Hattori, Nobuhito Imanaka, Yusuke Okazaki, and Gin-ya Adachi. "High temperature ³¹P NMR study on Mg²⁺ ion conductors." *Solid State Communications* 120 (2001) 295-298.
24. N. Kuwata, J. Kawamura, and Y. Nakamura . "New organic-inorganic hybrid superionic conductor glasses consisting of silver iodide and alkylbis-trimethylammonium diiodides."

- Solid State Commun. 124 (2002) 221-226.
25. Junichi Kawamura, Naoaki Kuwata, Yoshio Nakamura, Tomoki Erata, and Takeshi Hattori. "Evidence of multi-site exchange in AgI-AgPO₃ glasses: 109Ag NMR hole-burnign spectra." Solid State Ionics 154-455 (2002) 183-188.
 26. Naoaki Kuwata, Taira Saito, Masahiro Tatsumisago, Tsutomu Minami, and Junichi Kawamura. "cation dynamics of stabilized alpha-AgI in AgI-Ag₂O-MoO₃ glasses, studied by Ag-109 NMR." J.Non-Cryst.Solids 324 (2003) 79-91.
 27. Hideki Maekawa, Yoshitaka Ukei, Kai Morota, Naohito Kashii, Junichi Kawamura, and Tsutomu Yamamura. "High temperature proton NMR study of yttrium doped barium cerates." Solid State Communn. 130 (2004) 73-77.
 28. Naoaki Kuwata, Junichi Kawamura, Keisuke Toribami, Takeshi Hattori, and Noriko Sata. "Thin-film lithium-ion battery with amorphous solid electrolyte fabricated by pulsed laser deposition.", Electrochem.Comm. 6 (2004) 417-421.
 29. Junichi Kawamura, Naoaki Kuwata, Keisuke Toribami, Noriko Sata, Osamu Kamishima, and Takeshi Hattori. "Preparation of amorphous lithium ion conductor thin-films by laser deposition." Solid Sate Ionics 175 (2004) 273-276.
 30. M.S. Bhuvaneswari, S. Selvasekarapandian, O. Kamishima, J. Kawamura, and T. Hattori. "Vibrational analysis of Lithium nickel vanadate." Journal of Power Sources 139 (2005) 279-283.
 31. Junichi Kawamura, Naoaki Kuwata, Takeshi Hattori, Kazuki Hattori, Takahiro Hongo, and Junichiro Mizusaki. "Microscopic states of water and methanol in Nafion membrane observed by NMR micro imaging.", Solid State Ionics 176 (2005) 2451-2456.
 32. Kamishima, Y. Abe, T. Ishii, J. Kawamura, and T. Hattori. "Dielectric relaxation of protonic defects in hydrated and dehydrated SrZrO₃:Yb." Solid State Ionics 177 (2006) 2375-2379.
 33. Hangyan Shen, Hideki Maekawa, Junichi Kawamura, and Tsutomu Yamamura. "Development of high protonic conductors based on amorphous mesoporous alumina." Solid State Ionics 177 (2006) 2403-2406.
 34. Ryou Asayama, Junichi Kawamura, and Takeshi Hattori. "Plastic domain and ionic conductivity of (C₄H₉)₄NI." Solid State Ionics 177 (2006) 3245-3249.
 35. Hideki Maekawa, Yutaka Fujimaki, Hangyan Shen, Junichi Kawamura, and Tsutomu Yamamura. "Mesopore size dependence of the ionic diffusivity in alumina based composite lithium ionic conductors." Solid State Ionics 177 (2006) 2711-2714.
 36. Naoaki Kuwata, Ranveer Kumar, Keisuke Toribami, Takaya Suzuki, Takeshi Hattori, and Junichi Kawamura. "Thin film lithium ion batteries prepared only by pulsed laser deposition." Solid State Ionics 177 (2006) 2827-2832.
 37. O. Kamishima, B. Paxton, T. Feurer, K.A. Nelson, Y. Iwai, J. Kawamura, and T. Hattori, "Temperature dependence of low-lying phonon dephasing by ultrafast spectroscopy (optical Kerr effect) in Ag β -alumina and Tl β -alumina", J. Phys.: Condens. Matter 19 (2007) 456215.
 38. Brazier, L. Dupont, L. Dantras-Laffont, N. Kuwata, J. Kawamura, J.-M. Tarascon, "First Cross-Section Observation of an All Solid-State Lithium-Ion "Nanobattery" by Transmission Electron Microscopy", Chemistry of Materials, 20 (2008) 2352-2359.
 39. H.Shen,H.Maekawa,J.Kawamura,Y.Matsumoto,T.Yamamura,Y.Kawakita,K.Shibata,M.Kawa i, "Effect of pore size and salt doping on the protonic conductivity of mesoporous alumina", Solid State Ionics, 179 (2008) 1133-1137.
 40. Kamishima, Y.Iwai, J.Kawamura, T.Hattori, "Defect modes around low-lying phonon in Ag β -Alumina by Raman scattering with high resolution", Solid State Ionics, 179 (2008) 780-782.
 41. Yoshiki Iwai, Osamu Kamishima, Naoaki Kuwata, Junichi Kawamura, Takeshi Hattori, "109Ag NMR and relaxation mechanism in single crystal Ag β -Alumina", Solid State Ionics, 179 (2008) 862-866.

42. Shimon Ochi, Osamu Kamishima, Junichiro Mizusaki, Junichi Kawamura, "Investigation of proton diffusion in Nafion®117 membrane by electrical conductivity and NMR", Solid State Ionics, 180, 6-8, (2009) 580-584.
43. Naoaki Kuwata, Naoya Iwagami, Junichi Kawamura, "ArF excimer laser deposition of wide-band gap solid electrolytes for thin film batteries", Solid State Ionics, 180, 6-8, 644-648 2009
44. Liu, Huijin, Yujin Tong, Naoaki Kuwata, Masatoshi Osawa, Junichi Kawamura and Shen Ye, "Adsorption of Propylene Carbonate (PC) on the LiCoO₂ Surface Investigated by Nonlinear Vibrational Spectroscopy", J. Phys. Chem. C, 113, (2009) 20531-20534.
45. 河村純一, "リチウムイオン電池の NMR マイクロイメージング", Electrochemistry (電気化学および工業物理化学), 78(12) (2010), 999-1003.
46. Naoki Kuwata, Naoya Iwagami, Yoshinari Tanji, Yasutaka Matsuda, and Junichi Kawamura, "Characterization of Thin-Film Lithium Batteries with Stable Thin-Film Li₃PO₄ Solid Electrolytes Fabricated by ArF Excimer Laser Deposition", Journal of The Electrochemical Society, 157, (2010) A521-A527.
47. Yoshiki Iwai and Junichi Kawamura, "Observation of Electrophoretic Nuclear Magnetic Resonance Imaging in Polymer Electrolyte", Journal of the Physical Society of Japan, Supplement A, 79, 2010, 160-162.
48. Atsuyoshi Nakagawa, Naoaki Kuwata, Yasutaka Matsuda, and Junichi Kawamura, "Characterization of Stable Solid Electrolyte Lithium Silicate for Thin Film Lithium Battery", Journal of the Physical Society of Japan, Supplement A, 79, 2010, 98-101.
49. O.Kamishima, K Kawamura, T Hattori and J Kawamura, "Origin of activation energy in a superionic conductor", J. Phys.: Condens. Matter, 23, (2011) 225404.
50. 河村純一, "固体イオニクスの最前線 : レザ-と NMR を用いた固体イオニクス材料の研究 -新規超イオン伝導体から薄膜リチウム電池・NMR イメ-ジングまで-", 化学と工業, 65, (2012) 384-386.

受賞歴:

特になし

著書:

1. 河村純一. "固体のイオン伝導." 小笠原政明他編「新しい物理化学実験」共立出版 (1986) 74-77.
2. 河村純一, 下川繁三, 河村雄行(編著). "ラップトップ・コンピュータによる科学計測入門." HFS 出版 (1990).
3. 魚崎浩平, 河村純一. "電気計測機構と電気部品 : パーソナルコンピュータ." 実験化学講座(第 4 版) 丸善 9 (1991).
4. 伊丹俊夫, 江川徹, 井川駿一, 飯田陽一, 星野直美, 河村純一, 竹内浩(共著). "物理化学基礎演習." 三共出版 (1992).
5. 河村純一, 下川繁三, 河村雄行(編著). "ノートブックパソコンによる科学計測入門." HFS 出版 (1992).
6. 河村純一, 下川繁三(編著). "ノートブックパソコンによる科学計測入門 II." HFS 出版 (1993).
7. 加美山隆, 河村純一(編著). "DOS/V パソコンによる科学計測入門." HFS 出版 (1994).
8. 河村純一. "固体のイオン伝導体." 実験化学講座第 5 版: 7 巻 電気物性, 磁気物性 (2004) 147-158.
9. J.Kawamura, "Thin Film Batteries", in "Solid State Ionics for Batteris" (T. Minami, ed. Springer-Verlag, Tokyo), p64-72, 2005.
10. J.Kawamura, R.Asayama, N.Kuwata and O.Kamishima, "Ionic Transport in Polymer and Glass",

- in "Physics of Solid State Ionics", ed. T.Sakuma and H.Takahashi, Transworld Research Network, Kerala, India, 2005, p193-246.
11. T. Kudo and J. Kawamura. "Fast ionic conductors.", "Materials for energy conversion devices", ed. S Sugihara C C Sorrell, and J Nowotny. 174-211. Woodhead Publ. in Materials, 2005.
 12. Junichi Kawamura, Shinzo Yoshikado, Takashi Sakuma, Yoshitaka Michihiro, Masaru Aniya and Yoshiaki Ito, (Ed.) "Proceedings of the 1st International Discussion Meeting on Superionic Conductor Physics, Kyoto, Japan 10 - 14 September 2003", World Scientific, (2007).
 13. Junichi Kawamura, Naoaki Kuwata, and Ryo Asayama. "Ionic motion in organic-inorganic hybrid materials." Protonics in Plastic Materials, (ed.) S. Ikahata, Transworld Research Network, Trivandrum, India (2007) 1-26.
 14. 河村純一, 神嶋修, 前川英己, "ナノ複合体のイオン伝導—伝導度増加とパーコレーション問題—", (山口周 編集) "ナノイオニクス —最新技術とその展望— (Nanoionics -Recent Advances and Prospect—)", シーエムシー出版, 80-95 (2008).
 15. Junichi Kawamura, Tooru Atake and Naoki Inoue (ed.), Special Issue of "The 2nd International Conference on Physics of Solid State Ionics (2nd ICPSI)", Solid State Ionics, 180 (6-8) 2009.
 16. 河村純一, "リチウムイオン電池への応用", "実用薄膜プロセス 機能創製・応用例", 多賀 康訓・齋藤 文良(編 集), 技術教育出版社, (2009年) 332-254.
 17. 河村純一, "イオン導電性ナノ構造体の例", "ガラスの加工技術と製品応用", 情報機構, (2009年), 479-486.
 18. 河村純一, "導電性の向上", "ガラスの加工技術と製品応用", 情報機構, (2009年), 548-556.
 19. 河村純一, "第5章 イオン伝導度の測定方法", in "イオン伝導体の材料技術と測定方法", サイエンス&テクノロジー, (2011年) p307-339.
 20. B. V. R. Chowdari, J. Kawamura, J. Muzusaki, K. Amezawa (ed.), "Solid State Ionics - Ionics for Sustainable World -", Proc. 13th Asian Conference on Solid State Ionics, July 17-20, 2012, Sendai, Japan., World Scientific, Singapore, 2012.

東北アジア研究センター長候補者の略歴等

(ふりがな) おか ひろき

候補者名：岡 洋 樹

任 期：平成25年 4月 1日～平成27年 3月31日（新任）

生年月日：昭和34年 7月21日（53歳）

出身地：東京都世田谷区

部 局 名：東北アジア研究センター

所属専攻・学科名：

講座（部門）名：基礎研究部門

専門分野（専攻）名：東洋史、モンゴル史

略 歴：

昭和61年	3月	早稲田大学大学院文学研究科史学（東洋史）専攻修士課程修了
平成 2年	4月	早稲田大学第一・第二文学部助手
平成 3年	3月	早稲田大学大学院文学研究科史学（東洋史）専攻博士後期課程 単位取得退学
平成 5年	4月	日本学術振興会特別研究員
平成 8年	8月	東北大学東北アジア研究センター助教授
平成17年	5月	文学博士（早稲田大学）学位取得
平成18年	4月	東北大学東北アジア研究センター教授
平成20年	4月	東北大学総長特任補佐（平成22年3月まで）

主な研究業績：

- 1: 「定辺左副将軍ツェンゲンジャヴとその立場：清朝のハルハ＝モンゴル支配研究への導論として」
『早稲田大学大学院文学研究科紀要 哲学・史学編』別冊第13集、1987年1月、167～180頁。
- 2: 「ハルハ・モンゴルにおける清朝の盟旗制支配の成立過程：牧地の問題を中心として」『史学雑誌』
第97編第2号、1988年2月、1～32頁。査読有り
- 3: 「乾隆期中葉における清朝のハルハ支配強化とサンザイドルジ」『東洋学報』第69編第3/4号、1988
年3月、173～194頁。査読有り
- 4: 「定辺左副将軍の権限回収問題と『将軍・参贊大臣・盟長・副将軍辦理事務章程』」『史観』第119
冊、1988年9月、16～29頁。

5: Political Role of the Buddhist Church of Qalq-a Mongolia in the mid-Eighteenth Century. Altaic Religious Beliefs and Practices: Proceedings of the 33rd Meeting of the Permanent International Altaic Conference. BUDAPEST June 24-29, 1990. Ed. by Geza Bethlenfalvy et al., Budapest, 1992, pp.263-266.

6: 「乾隆帝の対ハルハ政策とハルハの対応」『東洋学報』第73巻第1/2号、1992年1月、31～61頁。査読有り

7: 「第三代ジェヴツンダムバ・ホトクトの転生と乾隆帝の対ハルハ政策」『東方学』第83輯、1992年1月、95～108頁。査読有り

8: 「『庫倫辦事大臣』に関する一考察」『神田信夫先生古稀記念論集 清朝と東アジア』山川出版社、1992年1月、197～214頁。

9: 「ハルハ副将軍について」『日本モンゴル学会紀要』Nos.22 (1991)/23 (1992)、1993年3月、1～13頁。査読有り

10: 「清朝とハルハ『八扎薩克』について」『東洋史研究』第52巻第2号、1993年9月、75～101頁。
The Qing Dynasty and the Eight jasaGs 八扎薩克 of Qalq-a 喀爾喀 Mongol. The Toyoshi Kenkyu (The Journal of Oriental Researches) Vol.LII, No.2, September 1993, pp.75-101.査読有り

11 「ホヴド・オオルト旗の成立：乾隆期中葉におけるザサク旗に関する一考察」『松村潤先生古稀記念清代史論叢』1994年3月、95～108頁。

12 「乾隆三〇年のサンザイドルジ等による対ロシア密貿易事件について」『清代中国の諸問題』（石橋秀雄編）、1995年7月、365～382頁。

13 「清代ハルハ＝モンゴルの教訓書の一側面：プレヴジャヴ布告文を中心に」『内陸アジア史研究』第12号、1997年3月、23～45頁。査読有り

14 「清代ハルハ・モンゴルの比丁冊」『東北アジア研究』第2号、1998年3月31日、211-234頁。査読有り

15 "The Mongols and The Qing Dynasty: The North Asian Feature of Qing Rule over Mongolia" Facets of Transformation of the Northeast Asian Countries. (ed. by Tadashi Yoshida et al.) Northeast Asian Study Series 1, The Center for Northeast Asian Studies, Tohoku Univ., March 1998, pp.129-151.

16. Чин улсын үеийн Халхын он дарааллын бичиг “Эрдэнийн эрих”-ийн тухай зарим асуудал. Түүхийн Судлал, Studia Historica Tomus. XXXI, Fasc. 1, Улаанбаатар, 1999. 1-18 тал.

17 「清代モンゴル・ザサグ旗官制について：外モンゴル・ハルハ・セツェン＝ハン部中末旗を事例と

して」『集刊東洋学』第81号、1999年5月30日、118-100頁。査読有り

18. 「清代ハルハ・モンゴルにおけるタイジと随丁——ハルハ東路セツェン＝ハン部中末旗を事例として——」『国際文化研究』（東北大学国際文化学会）第6号、1999年12月31日、29～43頁。1999. 査読有り

19. Чин улгын үеийн Монголын засаг хошууны нийгмийн зохион байгуулалгын тухай шинэ асуудал. Changing Paradigm of Mongolian Studies : Between Documents and the Field. Papers presented at the Twenty-Second Taniguchi International Symposium. Ed. by Yuki Konagaya, Mongolian Culture Studies II, International Society for the Study of the Culture and Economy of the Ordos Mongols (OMSe.V.), Koln Germany, 2001. pp.71-103.

20. 「乾隆期中葉ハルハ・モンゴルにおける漢人旅蒙商の商業活動」山田勝芳編『東北アジアにおける交易拠点の比較研究』東北アジア研究センター叢書第1号、東北アジア研究センター、2001年、17～33頁。

21. 「モンゴル国立歴史中央アルヒーヴ所蔵「将軍・参贊大臣・盟長・副将軍兜理事務章程」満文論旨とそのモンゴル語訳文書」『満族史研究通信』第10号、2001年4月10日、58～81頁。査読有り

22. 「モンゴルにおける地方社会の伝統的構成単位オトグ・バグについて——モンゴル国ヘンティ・アイマグ、ガルシヤル・ソム調査報告——」岡 洋樹編『モンゴル研究論集 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告I』東北アジア研究センター叢書 第6号、東北大学東北アジア研究センター、2002年、209～233頁。

23. 「東北アジア地域史と清朝の帝国統治」『歴史評論』2003年10月号（No.642）、2003年10月1日、50～59頁。招待論文

24 : Манжийн үеийн Монголын нийгэм дэх отог, багийн тухай. Монголын түүх, угсаатны судлалын зарим асуудал. Монголын түүх, угсаатны судлалын зарим асуудал. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы Төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2003 оны 9 сарын 15. Эмхэтгэсэн Аюудайн Очир, Ока Хироки. Northeast Asian Study Series 7, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2004. pp.65-74.

25 : 《jasaGtu qan ayimaG-un teUke》 ba manju-yin Uy-e-yin teUke bicilge. mongGul tulGur bicig-Un sudulul. (蒙古文献研究) wang manduG-a Goullan nayiraGulba. tOb-Un UndUsUten-U yeke surGaGuli-yin mongGul sudulul-un cubural bicig (nige)中央民族大学蒙古学叢書. 北京、民族出版社、2005. pp.465-468.

26 : 「道光3年のウリヤスタイ将軍の布告文について」 『東北アジア研究』 第10号、2006年3月30日、33～51頁。

27 : Манжийн үеийн засаг хошуу ба Монголын тусгаар тогтнолын нийгмийн нөхцөл. 1911 оны Монголын үндэсний хувьсгалын урьдчилсан нөхцөл ба олон улсын байдал. Монгол улсын ШУА-ийн Олон Улс Судлалын Хүрээлэн, Японы Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2005 оны 12 сарын 21. Эмхэтгэсэн Ока Хироки, О. Батсайхан. Northeast Asian Study Series 9, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 2006. 5-16 тал.

28 : 「清初、『外藩王公』成立過程におけるホルチン王家の地位について」 早稲田大学モンゴル研究所編『近現代内モンゴル東部の変容』アジア地域文化学叢書8、東京、雄山閣、2007年3月、47-70頁。

29 : 「清代史料にみえるモンゴルの災害に関する情報について」 『モンゴルの環境と変容する社会 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告II』 東北大学東北アジア研究センター叢書第27号、仙台、2007年3月、45-74頁。

30 : 「十九世紀ハルハ・モンゴルの布告文にみる地方行政——『プレヴジャヴ布告文』を中心として——」 細谷良夫編『清朝史研究の新たなる地平 フィールドと文書を追って』東京、山川出版社、2008年2月、288-309頁。招待論文

31 : T@r gerelti;n #r on: Uliasta;n janjn: uhuulah bixgi;n tuha;6 宝力格主編『中国蒙古学国際学術討論会論文集』呼和浩特；内蒙古教育出版社、2008年4月、597-607頁

32 : 「清朝の満洲・モンゴル統治」 岡洋樹・境田清隆・佐々木史郎共編『朝倉世界地理講座——大地と人間の物語—— 東北アジア』東京；朝倉書店、2009年11月、130-139頁。

33 : 「清代モンゴルにおける旗籍離脱と清朝統治——ウラド後旗と広覚寺の属民争奪の経緯からみた旗民の地位——」 塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流——近現代中国の南と北——』人間文化叢書 ユーラシアと日本——交流と表象——。東京；有志舎、2010年3月、305-341頁。招待論文

34 : 「清朝の外藩モンゴル統治における新政の位置」 『歴史評論』 No.725 (2010年9月号)、2010年9月1日、16-26頁。招待論文

35 : Xingynjav:n boslog:n y.i;n halh:n ni;gmi;n n@hc@l ba;dl:n tuha;6XVII-XX zuun: ehen y.i;n Mongol:n tyhi;n sudalgaa6 8Olon uls:n erdem winjilgeeni; hurl:n emhtgel 6 2010.VII.19-25. Ulaanbaatar-M@r@n96 Emhtgesen S6 Xuluun5 E6 Jigmeddorj5 Ulaanbaatar5 "0!06 "(-#& tal6

36 : Өвөр халхын түүхэнд холбогдох нэгэн сурвалж: Гүрбүш эфүгийн данс. Монголын түүх судлал ба сурвалж, Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, БНХАУ-ын Өвөр Монголын Багшийн Их Сургуулийн Монгол Судлалын Дээд Сургууль, Японы Тохоку Их Сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төв хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал. Улаанбаатар, 2009 оны 9 сарын 20-21. Эмхэтгэсэн Чулууны Дашдаваа, Чингэлт, Ока Хироки. CNEAS Reports 2, Sendai; Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2011. 245-252.

37 : 「モンゴルにおける清朝支配期に関する歴史記述の変化をめぐって」岡洋樹編『歴史の再定義—旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育—』東北アジア研究センター叢書第45号、仙台；東北大学東北アジア研究センター、2011年37-69頁

受賞歴：

1986（昭和61）年3月 修士論文「乾隆期清朝のハルハ・モンゴル支配」で小野梓記念学術賞（早稲田大学に設置）を受賞

1988（昭和63）年3月 論文「ハルハ・モンゴルにおける清朝の盟旗制支配の成立過程：牧地の問題を中心として」（『史学雑誌』第97編第2号、昭和63年2月）により流沙海西奨学金（東京大学東洋文化研究所に設置）を受賞

2007年12月7日 Honorary Doctor, Mongolian Academy of Sciences, The Ulaanbaatar University, Mongolia.

著書：

1 : Facets of Transformation of the Northeast Asian Countries. Co-edited with Tadashi Yoshida, Northeast Asian Study Series 1, The Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 1998.

Facets of Transformation of the Northeast Asian Countries II. Northeast Asian Study Series 3, The Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 1999.

岡 洋樹編『モンゴル研究論集 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告I』東北アジア研究センター叢書 第6号、東北大学東北アジア研究センター、2002年。

岡 洋樹・高倉浩樹編『東北アジア地域論の可能性 歴史学・言語学・人類学・政治経済学からの視座』東北アジア研究シリーズ④、東北大学東北アジア研究センター、2002年。

岡 洋樹・高倉浩樹・上野稔弘編『東北アジアにおける民族と政治』東北アジア研究シリーズ⑤、東北大学東北アジア研究センター、2003年。

Монголын түүх, угсаатны судлалын зарим асуудал. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн,

Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы Төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2003 оны 9 сарын 15. Эмхэтгэсэн Аюудайн Очир, Ока Хироки. Northeast Asian Study Series 7, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2004.

1911 оны Монголын үндэсний хувьсгалын урьдчилсан нөхцөл ба олон улсын байдал. Монгол улсын ШУА-ийн Олон Улс Судлалын Хүрээлэн, Японы Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2005 оны 12 сарын 21. Эмхэтгэсэн Ока Хироки, О. Батсайхан. Northeast Asian Study Series 9, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 2006.

『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京、東方書店、2007年2月。

岡洋樹編『モンゴルの環境と変容する社会 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告Ⅱ』東北大学東北アジア研究センター叢書第27号、仙台、2007年3月。

岡洋樹編『内なる他者＝周辺民族の自己認識のなかの「中国」——モンゴルと華南の視座から——』東北アジア研究シリーズ⑩、東北大学東北アジア研究センター、仙台、2009年3月。

Монголын түүхийн судалгааны шинэ хандлага, тулгамдсан асуудал 8XVII-XX зууны эхэн9. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн хүрээлэн, Японы Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Улаанбаатар, 2007 оны 9 сарын 6-7. Эмхэтгэсэн Чулууны Дашдаваа, Ока Хироки. Northeast Asian Study Series 10, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2009.

岡洋樹・境田清隆・佐々木史郎共編『朝倉世界地理講座——大地と人間の物語—— 東北アジア』東京；朝倉書店、2009年11月

岡洋樹編『歴史の再定義——旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育——』東北アジア研究センター叢書第45号、仙台；東北大学東北アジア研究センター、2011年

Монголын түүх судлал ба сурвалж, Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, БНХАУ-ын Өвөр Монголын Багшийн Их Сургуулийн Монгол Судлалын Дээд Сургууль, Японы Тохокү Их Сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төв хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал. Улаанбаатар, 2009 оны 9 сарын 20-21. Эмхэтгэсэн Чулууны Дашдаваа, Чингэлт, Ока Хироки. CNEAS Reports 2, Sendai; Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2011.